

2020  
11.5  
THU

熊本地震 応急仮設住宅・みんなの家  
廃材活用プロジェクト

## 宇土市網田小学校ワークショップ

開催場所 | 宇土市立網田小学校 参加児童 | 12人  
講師 | 佐藤 哲(熊本県立大学准教授) ボランティアスタッフ | 学生3人(熊本県立大学)



廃材を利活用して、  
学校のスツールをつくるワークショップ。

熊本地震の応急仮設住宅やみんなの家の解体に伴い、廃材を再利用する取り組みの一環として、小学生に向けた木材のワークショップを開催。熊本県立大学の佐藤哲准教授指導のもと、宇土市網田小学校の6年生12名が参加し、ボランティアスタッフの協力のもとスツールづくりにチャレンジした。使用する廃材は、みんなの家の縁側のデッキ材や、仮設住宅の柱や梁などの大きな部材。組み立てやすいようにあらかじめカットしたパーツを、佐藤准教授が描いた設計図をもとに組み立てていく。生徒1人1脚、合計12脚のスツールを製作。工具を使い、組み立て、できあがったら屋外でも使用できるように柿渋や蜜蝋でコーティング。学校内のどこで、どのように使うかは、生徒たちの工夫次第。今後の楽しみとなった。

**子どもたちの感想**  
図工が好きだけど、インパクトドライバー(工具)などの使い方が難しかった。だんだん使い方も慣れてきて、ビス打ちが特に楽しかった。(6年生男子)  
家が土木関係だから機械には触ったことがあったが、難しかった。コツをつかんだらスムーズにできて、これから使うのが楽しみ。(6年生女子)



## 甲佐町営白旗団地・乙女団地災害公営住宅が「設計賞-復興デザイン会議-」を受賞しました!

2020年11月16日、復興デザイン会議主催の「復興デザイン会議第2回全国大会」(審査委員長 羽藤英二(東京大学))が開催され、甲佐町営白旗団地・乙女団地災害公営住宅(シーラクス K&H 株式会社・熊本県・甲佐町)が「復興設計賞」を受賞した。丁寧な配置計画や地域ならではの土間空間等について、農村型の災害公営住宅として質の高いデザインである。地域性を踏まえて、周辺環境に馴染む小規模な住宅のモデルとなりうるとして高く評価された。



復興デザイン会議第2回全国大会については、こちらから  
▶ 2020年度・各賞の募集 > 審査結果(2020年度)  
> 第2回復興政策・計画・設計賞/復興研究論文賞  
<http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/conference.html>

## くまもとアートポリスを県政テレビで紹介!

くまもとアートポリスの取組みである「みんなの家利活用プロジェクト」について、2月3日に熊本県政テレビ「くまモン! スマイル ジャンプ!」で放送した。熊本地震で被災者の憩いの場となるよう応急仮設住宅団地に整備した「みんなの家」が、その役割を終えて、地域づくりの新たな拠点等に生まれ変わり、活用されている様子を紹介した。



放送回は、こちらから  
▶ 第38回放送「みんなの家」で地域に笑顔を!  
〜くまもとアートポリスを後世に〜  
<https://www.kininaru-k.jp/movie/4ch/>

## みんなの家 — 令和2年7月豪雨 —

平成24年熊本広域大水害や平成28年熊本地震において「みんなの家」を整備した経験を生かし、令和2年7月豪雨においても、甚大な被害を受けた方々の痛みを最小化し、少しでも安らぎを感じていただけるよう、応急仮設住宅団地の集会所を木造の「みんなの家」として整備した。12月には6市町村で20棟すべての「みんなの家」が完成している。



「みんなの家」の表札はすべて県内の高校生が揮毫した

### 仮設住宅団地のみんなの家に、国産畳がもたらす癒やしの空間を。

令和2年7月4日未明からの豪雨により甚大な被害を受けた球磨郡球磨村。平成26年の熊本地震の経験で蓄積された仮設住宅の建設ノウハウによって、発災から3カ月後の10月初旬には球磨村グラウンドに木造の仮設住宅団地が完成した。団地内の集会所「みんなの家」には、熊本県い草生産販売振興協会から贈られた八代産のい草を使った置き畳(9枚:4.5畳分)と畳ベンチ(2個)が置かれ、その贈呈式が行われた。国産の畳にはQRコードのタグがついており、そのQRを読み込むと生産者などの情報を見ることができる。また、当日は仮設住宅の入居日にもあたり、鍵渡し式が行われ、会場には熊本県の花弁協会から贈られた花が飾られた。



#### 球磨村長 松谷 浩一氏 コメント



仮設住宅団地のみんなの家は、気軽に使ってもらえる空間にしていきたい。みんなの家が団地のみんなの憩いの場になってほしいと願っています。その空間に畳があると、本当にホッとできる。香りがとても良く、ひとときの癒やしをここで感じてほしいと思います。

#### 八代市農林水産部 農業振興課 田中 博己氏 コメント



熊本県はい草の原料、い草の日本一の生産地です。令和2年7月の豪雨被害では、畳までも流された家が多く、ひとときの癒やしの空間をお届けしたいと、今回の置き畳と畳ベンチ贈呈につながりました。国産の約90%以上が熊本県産。その質の良さを感じていただきたいです。

## KASEI プロジェクト

### 山江村で家具の製作を行いました!

九州山口の建築系大学の学生や教員が参加し、仮設住宅等の住環境改善に取り組むKASEIプロジェクト。熊本地震に続き、豪雨災害における仮設住宅の住環境整備の取組みや、球磨村神瀬地区などで支援活動を始めている。2020年12月に山江村中央グラウンド

仮設住宅団地で家具製作を行った。事前のヒアリングや住人との対話を基に、2大学(九州大学、熊本県立大学)が、プランター置きや靴箱、手すりなどを設計・製作した。また、その材料の一部には仮設住宅建設の際に出た端材も活用された。



九州大学大学院 人間環境学府空間システム専攻修士課程2年 荒木 俊輔 氏

製作した家具によって、仮設住宅の生活が少しでも楽しいものになってほしいと願っています。2020年12月には九州圏の10大学がオンラインで仮設住宅を住みこなすためのアイデアを議論しました。山江村での家具製作をはじめ、コロナ禍における支援活動を模索し、少しずつ展開していきます。

